

# 主体的な音楽活動の中で育まれる児童の育ち —個人と集団の関係性から—

河北 邦子・竹田 礼子

## Raising Children Raised in Subjectivity Music Activities —from the Relationship between Individuals and Groups—

Kuniko KAWAKITA, Reiko TAKEDA

### はじめに

平成10年の学習指導要領で「生きる力」が教育理念として示された。以後この理念は継続し、平成29年学習指導要領では「生きる力」を育むことを目指して「主体的・対話的で深い学び」という言葉が示された。児童が主体的に関わっていると感じる場面を目にすることは多々ある。本稿では、改めて児童が主体的に関わろうとする環境を整えるための具体的な指導の在り方、そこで児童にどのような育ちがあるのかについて明らかにする。

### 1. 目的

初等教育は人間としての基礎力を養う場である。学校での集団生活における個と集団の関わりを通して育まれる児童の育ちについて、音楽活動の場を通してみていく。主体的な音楽活動とはどのような活動か、活動内での教師と児童、児童間のコミュニケーションの在り方はどのようなものか、そこで児童にはどのような育ちがみられるのかについて、学校生活における音楽活動を通してみていく。

### 2. 方法

主体性・主体的という言葉が教育界で注目されるようになった経緯と、求められる能力についての考え方の変遷を追う。児童が行う学校での音楽活動は、音楽科の授業を始めとし、授業以外のクラスでの活動、学年が一つになって行う特別活動、また自由な時間での児童の表現活動がある。本稿では主体的な音楽活動が記録できる授業実践のプロトコルを分析、考察する。また授業と特別活動による、学年が一つになって音楽活動を行う校内音楽発表会の過程での、友だちと評価し合うカードの記載を分析・考察する。そこに見られる児童の表現とコミュニケーションから、主体的な音楽活動における児童の育ちをみていく。

### 3. 「主体的」・「主体性」について

日本で「主体性」が注目され論じられるようになったのは、2006（平成18）年に経済産業省での大・中小企業を対象としたアンケートの結果にあるという。人生100年時代の社会人基礎力のアンケート結果をもとに、経済産業省は有識者会議の場で、社会人基礎力を「前に進みだす力（アクション）」「考え抜く力（シンキング）」「チームで働く力（チームワーク）」の3つの能力と

12の能力要素とした。主体性は最初の「前に進みだす力（アクション）」に示された3つの能力要素の第1項目であり、ビジネスの世界において、若手人材の問題として筆頭に挙げられ<sup>1</sup>ている。そして主体性の内容として「物事に進んで取り組む力【例】指示を待つのではなく、自らやるべきことみつけて積極的に取り組む。」と示されている。

## 1) 教育界で注目される「主体的」

教育界では、社会人の直前である大学教育において「主体的」が注目された。2012（平成24）年8月に中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」が出され、大学教育の在り方に問題提起がなされた。グローバル化や少子高齢化などの社会の急激な変化が予測困難な時代を生み出し、このような時代に立ち向かうための大学の在り方として、生涯学ぶ習慣や主体的に考える力をもつ、予測困難な状況に対応できる多様な人材を育成することを求めたものである。ここではアクティブ・ラーニングという言葉について、その方法が示されたが、言葉の共通理解が不十分であったり、特定の指導法や授業の型とされたり、活動の在り方に意識が集中するなどの偏った考え方がみられるようになった。

文部科学省は2014（平成26）年11月に、中央教育審議会に対して「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」を出した。その中で、「…基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、さらに実践にいかしていけるようにすることが重要である…」とし、実現のための具体的な対応としてアクティブ・ラーニングや、そのための指導方法等を充実させていく必要を提示した。その後、2016（平成28）年8月に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議とまとめ（案）」において、「アクティブ・ラーニング」を子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するための共有すべき指導改善の視点とし、「授業改善の視点」として明確化された。

このように、2000年代初頭に経済社会で課題とされた「主体性」は、2012（平成24）年の大学教育への問題提起となり、さらには高等学校や中・小学校にも広がっていき、2017（平成29）年の学習指導要領には「主体的・対話的で深い学び」という言葉が示されることになった。

## 2) アクティブ・ラーニングと主体的の違い

溝上（2019）<sup>2</sup>は、主体性（agency）を「行為者（主体）から対象（客体）へとすすんで働きかけるさま」、「主体的な学習（agentic leaningあるいはleaning agency）」を「行為者（主体）が課題（客体）にすすんで働きかけて取り組まれる学習のこと」と定義している。そして「主体的な学習」は、その深まりの在り方において3層から成り、アクティブ・ラーニングと「主体的な学習」は、その層の在り方において異なるという。

- |                            |
|----------------------------|
| 第1層 課題依存型 (task-dependent) |
| 第2層 自己調整型 (self-regulated) |
| 第3層 人生型 (life-based)       |

第1層の課題依存型とは課題（客体）を得る時の授業の雰囲気や、面白さなどの課題の質が主体である学習者の発現を促し、「興味・関心をもって課題に取り組む、書く、話す、発表する等の活動を通して課題に取り組む」状態という。第2層の自己調整型は「学習目標や学習方略、メタ認知を用いるなどして、自身を方向づけたり調整したりして課題に取り組む」状態という。そ

して第3層の人生型とは「中長期的な目標達成、アイデンティティ形成、ウェルビーイング（幸福感）を目指して課題に取り組む」状態をいい、過去や未来と関連させながら現在の学びを位置づける、人生を踏まえたものであるという。アクティブ・ラーニングは第1と第2層から成り、「主体的な学習」は第1、第2、そして第3層から成り、より深まりをもつ学習であるという。

### 3) 学習指導要領に示された「主体的な学び」

前述の通り、文部科学省はアクティブ・ラーニングという言葉のもつ多様性から、誤認をさけてこの言葉の使用をせず、12月には「アクティブ・ラーニング」については、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するために共有すべき授業改善の視点として、その位置づけを明確にすることとした。」と示した。同時に「主体的な学び」について

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。<sup>3</sup>

とし、その実現に向けて「見通しをもって粘り強く学習に向かうことができるようにする。」「学習の後に、それまでの学びを振り返って、次の学習につなげることができるようにする。」と示している。

上記の文面から、「主体的」という言葉は「学ぶことに興味や関心をもつ」「自己のキャリア形成の方向性と関連付け、見通しを持って粘り強く取り組む」「自己の学習活動を振り返って次につなげる」の態度を示している。そして、「見通しをもち、継続的に学習する力を身に付ける」「学習の経験と成果を、継続的に次の学習に活かす」ことによって、「主体的な学び」を実現するよう記されている。つまり人間社会への関わりに「学ぶ」ことが向かうということであり、そこで得たものが質的に変化していくことが「主体的な学び」ということである。

### 4) 文部科学省が示す「主体的」の変遷

平成の年号になってから、「主体」という文字が初めて小学校学習指導要領に示された。平成元年から現行の平成29年改訂小学校学習指導要領に至る4回の改訂において「主体性」「主体的」がどのように示されているのか、また溝上の主体性の3層と関わらせながら、求められる主体性の深まりについてみていく。

#### (1) 1989（平成元）年改訂 小学校学習指導要領

文部科学省が主体的という言葉を示したのは、1989（平成元）年の学習指導要領であり、総則部分に1カ所、各教科の国語と理科に各1カ所、道徳に2カ所示の5カ所に示されている。

○ 第1章総則 第1項教育課程編成の一般方針部分

(1) …学校の教育活動を進めるに当たっては、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。

「主体的」は自ら学ぶ意欲と、社会の変化への対応にあたる能力要素であり、第2層の「自己調整型」、及び第3層の「人生型」といえる。

○ 第2章各教科 第1節国語の第3指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い部分

(7) 個々の児童の特性を生かした指導を行い、主体的に表現し思考し想像する力を育てるようにすること。

「主体的」は表現、思考、想像する力の育成にあたる際の能力要素を示すもので、第1層の「課題依存型」あるいは第2層の「自己調整型」といえる。

○ 第2章各教科 第4節理科の指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い部分

(3) 個々の児童が主体的に問題解決活動を進めるとともに、学習の成果と日常生活との関連を図ることができるようにすること。

「主体的」は問題解決活動を進め、学習の成果と日常生活との関連を図る際の能力要素であり、第1層の「課題依存型」、第2層の「自己調整型」といえる。

○ 第3章道徳 第1項の目標部分

道徳教育の目標は…進んで平和的な国際社会に貢献できる主体性のある日本人を育成…

「主体性」は国際社会に貢献できる日本人として身につけるべき能力要素であり、第2層の「自己調整型」、第3層の「人生型」といえる。

○ 第3章道徳 第2内容〔第5学年及び第6学年〕の4項目

(1) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。

「主体的」は社会における自己の責任の在り方であり、第3層「人生型」につながる第2層の「自己調整型」である。

## (2) 1998 (平成 10) 年改訂 小学校学習指導要領

平成10年小学校学習指導要領には「主体」という語が6カ所に示されている。

○ 第1章総則 第1教育課程編成の一般方針部分

道徳教育は…進んで平和的な国際社会に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

「主体性」を身につける目的は「平和的な国際社会に貢献し未来を拓く」であり、第3層の「人生型」を目指す基盤として道徳性の涵養の必要性を示している。

○ 第1章総則 第3総合的な学習の時間の取扱い部分

2 総合的な学習の時間においては、次のようなねらいをもって指導を行うものとする。

(1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。

(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

(1)の「主体的」は自ら選択した課題に対応する方法の段階の一つとしての判断時の在り方であり、第2層の「自己調整型」である。(2)は問題解決や探究活動への取り組む態度の在り方であり、「自己の生き方」への言及もあることから、第2層の「自己調整型」、及び第3層の「人生型」である。

○ 第1章総則 第5指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

(9) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

学習活動や読書活動の在り方を示すもので、第2層の「自己調整型」である。

- 第2章各教科 第4節理科において、第3指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い部分に示されている。一部異なるものの、ほぼ平成元年と同様であり第1層の「課題依存型」、第2層の「自己調整型」である。
- 第3章道徳の第5学年及び第6学年の「4主として集団や社会とのかかわりに関すること。」部分に示され、平成元年と同様で第2層の自己調整型である。

以上、平成10年の小学校学習指導要領に示された「主体的」は、溝上の層の考え方に当てはめると、第2層、第3層が多い。

### (3) 2008（平成20）年改訂 小学校学習指導要領

平成20年改訂の学習指導要領には主体性の文字が7カ所示されている。そのうち6カ所は平成10年とほぼ同様であり、第1章総則に現れた新たな部分は以下の通りである。

- 第1章総則の第1教育課程編成の一般方針部分

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。

学習に取り組む態度の在り方を示しており、第2層の自己調整型といえよう。基本的には平成10年と大きな変化はない。

### (4) 2017（平成29）年改訂 小学校学習指導要領

#### ①全科目に示される「主体的」

平成29年改訂の学習指導要領では、「主体的」という言葉は59カ所示されている。第1章総則には9カ所、第2章各教科では国語(2)、社会(7)、算数(1)、理科(11)、生活(2)、音楽(4)、図画工作(2)、家庭(1)、体育(1)、外国語(1)の32カ所に示されている。そして第3章道徳(1)、第4章外国語活動(3)、第5章総合的な学習の時間(3)、第6章特別活動(11)と第3～6章では18カ所示され、すべてにおいて「主体的」という言葉が示されている。

出現のパターンは大きく3つある。パターンの一つは10の科目、及び「外国語活動」「総合的な学習の時間」「特別活動」の「指導計画の作成等に当たっての配慮事項」部分に示されている「主体的・対話的で深い学びの実現…」という文節である。二つ目は各科目の「社会」「理科」に示されている「主体的に問題解決しようとする態度」という文節である。三つ目は「主体的に学習に取り組む態度」の文節であり、この3つのパターンがほとんどを占める。またそれ以外のものも若干ある。

#### a. 「主体的・対話的で深い学びの実現…」

総則、及び各科目と外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動において「指導計画の作成等に当たっての配慮事項」部分に記されており、学習への意欲的側面と行動的側面において主体的であることが求められている。総則では「生きる力を育むことを目指す…」と第3層の「人生型」を示すと共に、授業改善を求めていることから第1層の「課題依存型」、第2層の「自己調整型」

を示している。

b. 「主体的に問題解決しようとする態度」

この文節は社会と理科で多く用いられている。問題解決は、取り組む目的が示されている場合と、目的そのものを自らが見出す場合とがあり、第1層の「課題依存型」と第2層の「自己調整型」と考えられる。

c. 「主体的に学習に取り組む態度」

平成20年度に加わった学習時の態度についての在り方を示すものであり、第2層の「自己調整型」である。「学習」の部分に教科名を入れて用いられている。

d. その他

「主体的」の後に「判断」「挑戦」「選択」などの活動が記されており、第1層の「課題依存型」、また「自己を発揮」「組織をつくり」は第2層の「自己調整型」といえよう。

平成29年改定の学習指導要領では、第一層の「課題依存型」が多く示されており、学びの在り方がより具体的に示されているといえる。

## ②音楽科に示される「主体的」

音楽科では4カ所に「主体的」が示されている。まず第5学年と6学年の目標部分である。

(3) 主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

音楽科の目標に示されたこの部分は、第1層の「課題依存型」、第2層の「自己調整型」であり、生活への言及があることからアイデンティティ形成、ウェルビーイング（幸福感）を目指して課題に取り組む第3層の「人生型」といえよう。

2カ所目は、指導計画の作成と内容の取扱い部分のパターンaである。

3、4カ所目は、内容の取扱い部分に次の記載がある。

(1) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。  
ウ 児童が様々な感覚を働かせて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。  
エ 児童が学校内及び公共施設などの学校外における音楽活動とのつながりを意識できるようにするなど、児童や学校、地域の実態に応じ、生活や社会の中の音や音楽と主体的に関わっていくことができるよう配慮すること。

ウはパターンcで、第1層の「課題依存型」、第2層の「自己調整型」である。エは第3層の「人生型」へ向けての第2層「自己調整型」といえよう。

上記より、音楽科における主体性とは、まず教師の示す課題に対し、意欲的に音楽を聴取し、創ろうとする態度をもつことである。また、友だちの表現を大切に、互いの感性や価値感を認め合いながら、より良い音楽表現を目指そうとすることである。次いで自己の音楽に対する感性やイメージを働かせると共に、友だちと音楽やコミュニケーションを通して協働する中で鑑賞力や表現力を高め合うことである。加えて他者と共に作り上げる音楽のすばらしさを体験することである。そして、音楽と関わる喜びや楽しむこと、自己の開放や他者と共に創る意義を認識し、他者と共に豊かな生活をおくろうとする態度を身につけ、音楽が将来にわたって生きる喜びの糧の一つとなることを学ぶことといえよう。

## 4. 実践研究

授業と学校行事における実践を通して児童の主体性をみていく。

### 1) 授業研究

授業者（筆者：竹田）の方針と、授業実践に関わる学習指導要領との関わりを記し、授業実践について分析、考察する。

#### (1) 主体的な音楽活動を引き出す教師の方針

授業担当者である筆者は、児童の主体的な音楽活動を引き出すために次の仮説をたて、それに基づいた方針により実践している。

主体的な音楽活動とは、学習指導要領に示された「主体的な学び」より「音楽活動に興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、次の学習につなげていくことができること」<sup>4</sup>と捉える。

##### ①主体性が生まれる要因についての仮説

児童の主体的な音楽活動を保障していくために次のような仮説を立てた。

児童は、友だちとの関わりの中で音楽活動をすることに楽しさを見出しているのではないだろうか。関わりの中で、学び合い、音楽の喜びをふくらませていると考える。

児童は、お互いの存在を認め合いながら、気持ちを合わせて音楽表現を工夫したり、教え合ったりする過程を通して、自分たちの音楽表現をよりよい方向へ進めていきたいと思うのではないだろうか。また、友だちとの関わりの中で、お互いのよさが見つかると共に、様々な気づきも生まれる。そこでお互いに、教え合ったり、助け合ったり、演奏を聴き合ったりする活動が必要となってくる。このような活動の中で、少しずつ、自信を持って表現したり、喜びを持って音楽を楽しんだりできるようになると考える。また、友だちとの関わりを大切にする取り組みを繰り返す中で、自分たちの課題に気づき、音楽表現の向上に繋がっていくと考える。音楽表現が高まっていく中で、お互いの信頼関係がさらに強まり、次の活動への意欲が高まっていくと思われる。このような音楽活動を取り入れていくことで、児童は、見通しを持って、豊かな音楽表現へと向かって進んでいくことができるのではないだろうか。

##### ②主体性を生み出す教師の方針

さらに、次のような日々の取り組みが児童の主体的な音楽活動の基盤となると考える。

筆者は以下の点について日常的に心がけて授業に取り組んでいる。

###### i 授業の始め方の工夫

音楽室に入るとき、明るく元気な声で挨拶を交わす。元気な挨拶をすることで、心と身体が動き始め、表現活動への準備となると考える。また、誰もが授業の始まりから音楽の世界に入ることができるように、席に着くと同時に、ピアノ伴奏を始め、「今月の歌」を歌う。毎回、歌でスタートすることで、音楽活動を誰もが安心して始められる環境をつくるように心がけている。

###### ii 人間関係づくり

学級集団での音楽活動で、集中して音楽を楽しむためには、学級全体の温かい雰囲気づくりや席の近くの児童同士の人間関係などに留意している。忘れ物がある時や困っている様子に気づいた時、周囲の児童の動きを待ち、友だち同士で声をかけ合ったり、見せ合ったりする行動をしっかりと認めるようにしている。様々な場面で、お互いに支え合って、音楽を楽しむことを意識づ

けるようにしている。

### iii 音楽活動を楽しむための基礎的な知識、技能

音楽の知識や技術は個人差があり、その時点で、つまり児童は少なくない。新しい学習内容や曲との出会わせ方など、指導の工夫が重要となるところである。演奏後に大判楽譜で共通理解をし、児童の気づきを生かし、繰り返し練習しながら「わかる・できるうれしさ」や、全体の課題を見つける喜びを味わいながら学習を進めていくように心がけている。

### iv 共感・共働・個性を認め合うグループ活動

グループに分かれる前に、活動のめあてを一人ひとりがしっかりと把握しておくことが大切である。また、音楽表現に集中するために、役割を明確にし、高い意識を持って取り組めるようにすることが重要である。グループ活動は、一人ひとりの考えや役割を生かすことのできる活動ではあるが、児童任せになりがちなので、それぞれのグループの取り組みを適宜把握し、的確な指導、助言が必要となる。「自分の考えや演奏がみんなの役に立つ」喜びを味わえるようにお互いの言葉かけや協力し合うことの大切さが学び合えるように活動の様子をしっかりと見取っていくようにしている。

## (2) 学習指導要領と実践研究との関わり

二つの授業実践について、学習指導要領との関わる部分を示す。

### ①実践1に関わる学習指導要領の記載

内容

ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

思いや意図を言葉や音楽で伝え合うこと、実際に歌ってみることを繰り返ししながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫するように促すことが重要である。

### ②実践2に関わる学習指導要領の記載

内容の取扱いと指導上の配慮事項より

イ 音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽と関わるができるよう、指導のねらいに則して体を動かす活動を取り入れること。

「児童が思いや意図をもって主体的に表現したり、曲や演奏のよさなどを見だし音楽を全体にわたって味わって聴いたりするためには、全体的な見通しをもつという意味でのイメージが重要となる。

指導に当たっては、体を動かすこと自体をねらいとするのではなく、例えば、音楽の特徴を捉える学習を深めたり、思いや意図に合った表現を高めたりするなど、指導のねらいに応じて効果的に取り入れられるように留意する必要がある。」

### ③実践1 2に関わる学習指導要領の記載

ウ(ウ) 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能

思いや意図に合った表現をするために必要な互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けることができるようにすることをねらいとしている。



### (3) 授業実践1

授業実践1の対象である児童は、歌うことが好きで、毎日、学級で「今月の歌」を意欲的に歌っている。また、音楽への興味関心も高く、音楽を聴いて感じ取ったことや、楽譜を見て気づいたことなどを進んで発言できるようになっている。

初めての二部合唱への取り組みであり、児童の期待感が大きく、意欲が感じられる。児童の前向きな気持ちを大切にしながら、声の響きを合わせたり、ハーモニーをつくる活動を、楽しく取り組めるような指導の工夫を試みた。

#### ①指導計画

音楽科 学習指導案

年月日：令和2年11月27日（金） 第3校時

教室：音楽室

対象：4年2組

1 題材 せんりつの重なりを感じ取ろう

2 教材 「もみじ」

3 主眼 それぞれの歌声のよさを感じながら、旋律の重なり方に気をつけて、二部合唱を工夫する。

4 本時の展開（第1次 本時4／4）

学習活動・学習内容	教師の働きかけ・指導上の留意【評価】
<p>1 本時の音楽の目あてを確認する。 ・音楽を楽しもうとする意欲</p> <p>2 目あてをもって「もみじ」を歌う。 ・前時までの取り組み ・ソプラノ・アルト ・声のひびき ・言葉 ・音程 ・リズム ・表現したいこと</p> <p>3 グループ発表に向けて、表現方法を工夫する。 ・並び方 ・歌いはじめ ・旋律の重なり方 ・音の強弱 ・バランス ・終わり方</p> <p>4 お互いの発表を聴き合い、表現のよさや工夫などを話し合う。 ・表現が高まった満足感 ・お互いの成長を感じ取る気づき</p>	<p>・楽しい音楽の雰囲気づくりをする。 ・表情豊かな歌い方をしている児童を紹介し、意欲を喚起する。 ・それぞれのパートの特徴について、楽譜で確認する。 ・グループ発表に向けて、表現方法をどのように工夫していくか意識づけを明確にし、意欲を高めたい。</p> <p>【知・技 発言内容 表情観察 演奏聴取】</p> <p>・集中してグループでの活動ができるように移動の仕方や並び方などしっかりと確認する。 ・自信を持って担当したパートが歌えるように2部に分かれる所の旋律を繰り返し歌ったり、気づきを話し合ったりさせる。 ・表現が高まっていることにお互いに気づき、認め合えるようにしたい。</p> <p>【思・判・表 発言内容 演奏聴取】</p> <p>・発言や表現から成長を感じ取った聴き方、見方をしている児童を価値づけ、お互いの高まりに気づかせる。 ・一人ひとりの取り組み方のよさを認め合い、達成感を味わわせる。</p> <p>【態 発言内容・表情観察 演奏聴取】</p>

○個と集団の関わりについて

個（S児）とグループ、学級の関わり、相互作用の中での変容、育ちについてみていく。

S児は、ピアノを習っていて、音楽への興味関心が非常に高く、集中して聴き入ったり、気持ちを込めて演奏したりする姿が見られる。また、気づきや思いを積極的に発表し、音楽の学習を意欲的に進めようとしている。

S児は、堂々と自信を持って歌うことはできるが、二部合唱の経験は、少なく、お互いに聴き合って、ハーモニーをつくることには抵抗があると思われる。

## ②結果

S児と学級児童との関わりから音楽表現に向かっていくプロセスが見られる。教師が「人の声をよく聴いて合わせましょう」と教えるのではなく、S児の強い思いをまわりの児童が受け止めながら、共に考え、よりよい表現へと主体的に学び合う場面と捉える。

プロトコルの左列は授業開始からの順であり、中央は発話者（c：一人の児童の活動、cn：不特定多数の児童の活動、ca：学級の全児童による活動、t：教師の活動）、右列は発言内容や身体表現等である。児童及び児童集団の発話等はゴシック体、教師の発話等は明朝体で示す。

### プロトコル1 S児と他児が関わる部分

155	t	では、3つ目の気持ち、感情。どんな気持ちで歌ったらいいと思う？はいSくん。	
156	c	自分の音…他の音は気にせずに、自分の音しか感じずに…	〈S児〉
157	c	他の音は聴かない	。〈S児〉
158	cn	それはだめー	
159	t	待って待って、なにに？	
160	c	聴かないのではなく、聴こえないように自分の音楽だけを信じて歌う。	〈S児〉
161	t	集中するってことね？自分の音楽をもつてこと？なるほど。	
162	c	左手と右手を区別するのと一緒です。	〈S児〉
163	t	おお、ピアノ？…集中する、集中して自分の音楽をもつ（板書）自分が大事になってくるってことよね。	
164	c	それだけじゃなくて、…（聞き取れない）	〈S児〉
165	t	うん、自分の音楽とみんなの音楽をつなげる。	
166	c	それってまとめたら、みんな、同じ息を合わせる。…	〈K児〉
167	t	息を合わせる。（板書）	
168	c	そしたらどんな音楽でも…	〈R児〉
169	t	素晴らしい音楽ができるね。いいこといっぱい言ってくれたね。みんなと自分…	
170	t	はい、Rさん	
171	c	みんなの音楽に合わせながら、自分…自分の音とかに、気を付けて。	〈R児〉
172	t	そうだね。だからみんなだけじゃなくて、自分を失わないように…ってことが言いたいだね。	

一人の児童、他児の発言を教師が全体の児童の学びにつなげる過程を表1に整理した。

表1 S児と他児との関わり

S児	教師	まわりの児童
	どんな気持ちで歌ったらいいと思う？	
「自分の音…他の音は気にせずに、自分の音しか感じずに…」 「他の音は聴かない。」		「それはだめー」
「聴かないのではなく、聴こえないように、自分の音楽だけを信じて歌う。」		
	「集中するってことね。自分の音楽を持つてこと？」	
「左手と右手を区別するのと一緒です。」		

	「おお、ピアノ？集中して自分の音楽を持つ（板書）自分が大事になってくるってことよね。」	
「それだけじゃなくて・・・つなげる・・・」	自分の音楽とみんなの音楽をつなげる  「息を合わせる」（板書）	K 児 「それって、まとめたら、みんな同じ息を合わせる」
	すばらしい音楽ができるね。いいこといっぱい言ってくれたね。みんなと自分・・・ Rさん	「そしたら、どんな音楽でも・・・」
	そうだね。だからみんなだけじゃなくて、自分を失わないようにって言いたいんだね。	R 児 「みんなの音楽に合わせてながら自分、自分の音とかに気をつけて」

### ③分析と考察

グループで歌い方を工夫しながら二部合唱を発表し合う活動の前に、一人ひとりがどのような気持ちで取り組むかを話し合った場面である。

S 児は、当初「自分の音しか感じず、他の音は聴かない」と言い切り、「自分」の感じ方、表現を全面に出したいという強い思いを表出させた。本時の学習のめあてと逆行するような発言が「これから、どのように歌うか」ということをみんなに強く投げかけることになった。まわりの児童からの反応を受け、S 児は「自分の音だけを信じて」と発言を訂正している。S 児は、教師の「集中するってこと？」という問いから、得意のピアノの演奏に例え、「右手と左手を区別すると同じ事」と答え、他児は、「どういうことだろう？」と考える場面となった。教師の「自分の音楽に集中。自分が大事」という言葉から「それだけじゃなくて・・・つなげる」とつぶやいている。ピアノの右手と左手は互いに協調しながら音を奏で豊かな音楽をつくりだしていくことに K 児が共感し、「まとめたら、みんな息を合わせる」という考えを導き出している。さらに、「どんな音楽でもみんな息を合わせていくことが大切だ」という意味の発言に進み、Y 児が「みんなの音楽に合わせてながら、自分、自分の音とかに気をつけて・・・」という発言をしている。S 児は、当初、自分本位の音楽と誤解されそうな発言をしている場面もあるが、周りの児童の反応を受けながら、軌道修正している。また、周りの児童もそのやりとりの中で、これからの活動へのイメージを持ち、考え、判断している。この話し合いの中で、二部合唱について、次のことを学習していると考ええる。

- ① 自分を信じて歌う
- ② まわりの音、みんなの声を聴く
- ③ お互いに息を合わせる
- ④ ①②③を繰り返す

授業後の振り返りカードで、S 児は、「もうちょっと人と合わせて歌いたい。」という感想を書いている。また、「1 学期より〇〇君は、感情をこめて歌っていた。」と自分の思いと友だちの歌い方を重ね合わせている。

子どもたちの成長過程の中で、自分の思いを優先する児童と、反対に周りの目を気にして思い通りに歌えない児童の両方が見受けられる。4 年生は、個人差が大きくなり、他人と比較したり、自己肯定感が低くなったりし始める時期でもある。お互いの歌声を聴き合い、その個性や変容を認め合うことを通して、自分の歌声がみんなの中で生かされていることに気づき、合唱の楽しさ

を味わうことができる。このような取り組みを積み重ねていく中で、一人ひとりの児童が学習への見通しを持って、粘り強く次の学習へつなげていくことができるようになると思う。

S 児の主体的な言葉、態度は、第 1 層の課題依存型、自己調整型であると思う。また、K 児、Y 児は自己調整型であると思う。

## (4) 授業実践 2

授業実践 2 の対象とした学級は、音楽活動に積極的に取り組む児童が多く、グループ活動で友だちと話し合いながら音楽表現を工夫し発表することで、楽しく学習を進めていくことができる。一方では、めあてを持って学習に集中することが苦手な児童もいる。

2 つの旋律の重なり合いを楽しく工夫するためには、それぞれの旋律の特徴を十分に感じ取っておくことが大切である。そのために、体の動きで音楽の感じ方をみんなで確かめ合う活動が効果的であると考えた。

### ①指導計画

#### 音楽科 学習指導案

年月日：令和 3 年 11 月 19 日（金） 1 校時

教室：音楽室

対象：4 年 1 組

1 題材 せんりつの重なりを感じ取ろう

2 教材「パレードホッホー」

3 主眼 二つの旋律の特徴に気づき、重なり合いを感じながら、楽しく歌うことができる。

4 学習過程（第 1 次 本時 3 / 4）

学習活動・学習内容	教師の働きかけ・指導上の留意点【評価】
<p>本時の音楽の目あてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を楽しもうとする意欲</li> <li>・前時の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい音楽の雰囲気づくりをする。</li> <li>・表情豊かな歌い方をしている児童を紹介し、意欲を喚起する。</li> </ul>
<p>2 目あてをもって「パレードホッホー」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声の出し方</li> <li>・旋律の特徴</li> <li>・特徴を表す動き</li> <li>・リズム</li> <li>・言葉</li> <li>・旋律の重なり合い 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（ア）の弾んだ歌い方、（イ）のなめらかな歌い方を大判楽譜で確かめ、特徴を生かした歌い方ができるようにする。</li> <li>・弾む感じとなめらかな感じを身体の動きで表そうとしている児童を価値づけ、みんなで歌いながら旋律の動きを感じ取る。</li> <li>・どのような工夫をしたら旋律の重なり合いを誰もが楽しむことができるかを考えさせ、本時のめあてを明確にする。</li> </ul> <p>【知】【発言内容】</p>
<p>3 音の重なりを感じながら、グループで歌い方の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の特徴と重なり方</li> <li>・バランス</li> <li>・タイミング</li> <li>・強弱</li> <li>・合わせ方の工夫</li> <li>・終わり方 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アとイの重なりバランスをみんなに聴いてもらい、声の出し方を工夫する。</li> <li>・お互いに聴き合った気づきを生かしながら、歌い方を工夫する。</li> <li>・旋律の特徴や歌い始めのタイミングなど、楽譜にもどって、歌い方に結びつけていく。</li> <li>・音楽の特徴を歌い方や動きに表したり、感じ取っている子どもを価値づけたりする。</li> </ul> <p>【思】【発言内容・演奏聴取】</p>
<p>4 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の満足感</li> <li>・次時への期待</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの取り組み方のよさに気づかせ、次時に向けての意欲化を図る。</li> </ul> <p>【感】【表情観察・記述内容】</p>

## ②結果

グループ活動時は4つに分かれて活動した。プロトコル2は、1班のグループ活動の様子であり、ここではY児とM児について着目する。

Y児は、日常的に音楽活動に消極的である。しかし、プロトコルには表れていないが、本時のグループ活動開始時からcnのところではY児の積極的な参加と取り組みが見られる。またこのグループにおいて、M児はリーダー的存在として、音楽活動を進める役割を担っている。

### プロトコル2 1班のグループ活動の様子

1	c	じゃあさ、最初のホッホーのところで・・・
2	cn	(右手でこぶしを作り上にあげた後、隣同士で手をつなぎそのまま上にあげる)
3	c	よし、やるよ。最後がばってなるけ！じゃあ、最初からやる！
4	c	せーの！
5	cn	(グループで歌に合わせ身体表現を行う)
6	cn	(「バラタタタ～まちからまちへと」のところまで軽快な足踏みをする)
7	cn	(ホッホーのところで右手を挙げ、「それそろってみにいこう」のところでもう一度足踏みを行う)
8	cn	(「とおいそら～ゆめがあふれる」のところまで体を横に揺らす)
9	cn	(「バラタタタ～そろってみにいこう」までを歌う人は足踏みをし、「とおいそら～ゆめがあふれる」までを歌う人は体を横に揺らす)
10	cn	(歌い終わりにみんなで手をつなぎ上に挙げる)
11	c	テッテテテテテ(ピアノの後奏部分をヴォカリーズする)のとしよう、せーの
12	cn	「テッテテテテテテン！」(ピアノの前奏部分をヴォカリーズする)とリズムを口ずさみ、みんなで手を挙げるところを揃える
13	c	よし、できたー
14	cn	(話し合いを行う)
15	cn	女の子で話し合いをする)
16	cn	(全員でポーズの確認をする)
17	cn	(パートに分かれて練習をする)
18	c	これだけじゃなんかさ・・・(横に揺れる時の動きをしながら)
19	cn	手つないで～動いて(実際に手をつないで動いてみる)
20	c	これ2番？
21	c	いや、2番じゃなくて普通にこうやって
22	c	あの、とおい～・・・
23	c	よしやってみよう！いくよ！せーの！
24	cn	(せーのと言った子がとなりの子と手が当たり、一旦中断し、もう一度始めからに)
25	c	あー、ごめんね。せーの
26	cn	〇〇さん、すごい前に・・・(前に出ている子に後ろに下がるよう伝える)
27	c	せーの(もう一度始めから)
28	c	(違う動きをしていた子を注意する)
29	c	せーの(もう一度始めから)
30	cn	(「バラタタタ～まちからまちへと」のところまで軽快な足踏みをする)
31	cn	(「ホッホー」のところで右手を挙げ、「それそろってみにいこう」のところでもう一度足踏みを行う)
32	cn	(「とおいそら～ゆめがあふれる」のところまで隣の人と手をつなぎ、体を横に揺らす)
33	cn	(「バラタタタ～そろってみにいこう」までを歌う人は足踏みをし、「とおいそら～ゆめがあふれる」までを歌う人は体を横に揺らす)
34	cn	(歌い終わりにみんなで手をつなぎ上に挙げる)

35	t	見せて？ 1. 2. 3. はい（手拍子をしながら1班の練習を見る）
	cn	（最初から練習する）
36	t	（一緒になってからだを揺らす）
37	t	手つなく？（手をつないでいない子に声をかける）
38	t	（手拍子をする）
39	t	おー！！（拍手をする）
40	t	ちょっと1番の歌バージョンやって。1. 2. 3はい！
41	t	（子どもたちに声をかける→なんて言っているか聞こえませんでした）
42	c	最後のとこやろ！
43	cn	「テッテテテテテン！」（ピアノの後奏部分をヴォカリーズする）
44	cn	（最後の全員で手を挙げるところを確認する）
45	c	どうしよう
46	c	もっかいやる？あ、じゃあ・・・
47	c	せーの！
48	c	「テッテテテテテ」（ピアノの前奏部分をヴォカリーズする）
49	c	せーの
50	cn	（「バラタタタ～まちからまちへと」のところまで軽快な足踏みをする）
51	cn	（「ホッホー」のところまで右手を挙げ、「それそろってみにいこう」のところでもう一度足踏みを行う）
52	cn	（「とおいそら～ゆめがあふれる」のところまで隣の人と手をつなぎ、体を横に揺らす）

### プロトコル3 協力についての話題部分

124	cn	協力。
125	t	はい、協力とは？
126	t	はい、Nさん。
127	c	自分から入ったり。
128	t	そうね、自分から入ったりしたらいいですね。そして？
129	t	H君言って。人の？
130	c	人の意見を聞く。
131	t	そう、人の意見を聞く。もうひとつ。はい。
132	c	仲間はずれにしない。
133	t	仲間はずれにしない。自分から外れていかない。だったよね。自分からは行っていくんだよね。

### ③分析と考察

児童はグループ毎にアとイの部分で身体の動きを取り入れて歌唱活動をしている。各部分の動きはグループによって独自性があり、およそアの部分には「はずんでいる感じ」で動きは（縦揺れ軽くジャンプ 両腕を前後に動かす）、イの部分には「なめらかな感じ」で（横揺れ やわらかい動き 両腕を開く）を伴っている。本時までには「アは、どんな感じがする？」と問いかけると、「元気」「楽しい」「スキップしている」などの言葉が返ってきた。動きを入れて歌ったり、楽譜から「スタカート」を見つけたりして、「はずんでいる」という共通の言葉を導き出した。同様に、イは、「やさしい」「ゆったり」などの言葉や動きから「なめらか」という共通の言葉を導き出した。この言葉を元に、みんなで、「はずんだ感じ」「なめらかな感じ」の対比を歌い方や動きで楽しく表現していくことができた。

また、歌いながら自然に体を動かしている児童を見つけて、クラス全体に紹介することで、音

楽のイメージをつかみにくい児童にも「はずんだ感じ」「なめらかな感じ」を体感させることができる。友だちと同じ動きをしたり、自分なりに感じた動きをしたりすることで、歌い方に変化が見られるようになっていった。このような活動を前時までに何度も繰り返し行った。

前述の通り、Y児は、普段あまり積極的に歌ったり、拍ののって動いたりすることはしない児童である。今回のグループ活動でも、初めは消極的であったが、何回か動きを付けて歌ったり、話し合ったりする過程で、自信を持って大きな動きを始めた。特にアの「はずんだ感じ」では、軽やかにジャンプしながら歌う姿が見られた。友だちと何回も表現を繰り返す中で、自分なりに音楽と動きの関係性をつかむことができ、自然と音楽表現を楽しめたようだった。友だちの中で育つ醸成された空間、互いに学び合い、影響し合う関係性が、Y児の心を開放し、音楽的な動きを導き出したと考える。課題は、教師が与え、児童が共感、協調していく取り組みが、Y児にとっては創造的な活動となっている（no.5～12,16,17,19,30～34,43,44,50～52）と思われる。

また、M児を中心に「テッテテテテテ」（no.11）とピアノ伴奏部分を自分達で自然に口ずさみながら歌い始め、「テッテテテテテテン！」（no.12）とリズムに乗って終わり、グループ全体でスタートから終わりまでに気持ちを合わせようとする工夫が見られた。M児は、グループ活動の始めに「最初のホッホーところで・・・」（no.1）「よし、やるよ。最後がぱっとなるけ！じゃあ、最初からやる」（no.3）などの言葉かけをグループのメンバーにしている。また、横に揺れるときの動きについて、「これだけじゃなんかさ・・・」（no.18）という問いかけを友だちにしている。そこから、みんなで手をつないで動く動作に変化している。終盤にも「どうしよう」（no.45）とつぶやき、近くの児童が「もう1回やる？じゃあ・・・」（no.46）と答えている。M児の働きかけは、グループ活動全体を進行したり、周りの児童とコミュニケーションを取ったりする二つの大きな役割をしている。音楽表現を工夫する楽しさをグループの仲間同士が共有することに貢献していると言える。

音楽を自分の中に取り込んで、何らかの表現へ結び付ける過程には、児童によって、それぞれの道筋があるように思われる。全体での音楽表現、グループでの活動、発表等、主体的に音楽と関わろうとする場面は、児童によって異なることを改めて感じる。音楽を聴いた瞬間に、「この曲を歌ってみたい。」という児童は、自然に主体的に音楽と関わっていくことができる。一方で、授業のスタートでつまづいている児童に対して、教師はどのような支援、指導の工夫が必要かを見出していくことが重要である。

また授業の中で、楽しいグループ活動を支えるために、みんなで共有しておくことを繰り返し確かめ合った。「グループ活動で大切なことは？」と質問すると「協力」と言うので、「協力とは？」と質問すると、「仲間はずれにしない」「自分から入る」「人の意見を聞く」などの発言が返ってきた。みんなに分かりやすく、具体的な行動に表せる言葉に置き換えるようにした。

今回のようなグループ活動では元気のよい声が4つの班から聞こえてくる。グループの自分たちの歌声に集中しにくい点もあり、グループ活動の環境の整え方をさらに考える必要性を感じた。

Y児の主体的な態度は、課題依存型であると考えられる。また、M児の主体的言葉・態度は、自己調整型であると考えられる。

## 2) 校内音楽会の取り組み

校内音楽会は、学校行事に位置付けられ、2学期の行事として親しまれている。歌唱、器楽の他、音楽劇などを発表する場合もある。発表を全校児童で鑑賞し合ったり、保護者や地域の方を招待したりして、学校全体で取り組む行事である。また、音楽の授業の発表の場としても考えられ、学年の発達段階に合った選曲も重要である。

本校では、毎年、6年生が校内音楽会の前に、歌を友だちや先生に聴いてもらう取り組みをして

いる。歌う人数は、一人～数人で、聴いてもらう相手は、学級、学年の友だち、家族、先生である。先生は、担任、元の担任、学年、専科、校長先生、保健の先生まで広がることもある。歌った後で、児童の個性や頑張り、成長などを書いてもらったり、言葉かけをしてもらうことで、歌うことがたくさんの人とつながることを感じ取ったり、自分の歌い方のよさに気づいたりできる。6年生は、学校の代表として、山口市合同音楽会にも出場するので、このような取り組みを通して、一人ひとりが自信を持って、大きなステージに立ってほしいと願うところである。

### (1) 6年生の合唱発表への取り組み

6年生「感動できる合唱に挑戦しよう」カードには、歌う時、聴き合う時の留意点を次のように記載している。

《歌い方》

- ☆まっすぐな姿勢で、聴いてくれる人に本気を伝え
- ☆目、耳、鼻、のど、口を開き、響きのある歌声をつくる
- ☆ほほを上げて、明るい表情で歌う
- ☆思いをこめて、言葉をはっきり伝える

《聴き方・書き方》

- ☆応援する気持ちで真剣に聴いてあげましょう。
- ☆よいところを見つけてあげましょう。
- ☆気持ちのこもった言葉でちゃんと感想を書いてあげましょ  
う。

♪感動できる合唱に挑戦しよう!

6年生 組 名前

先生や友達に「いのちのうた」の1番を聴いてもらって、感動を書いてもらいましょ。

《歌い方》

- ☆まっすぐな姿勢で、聴いてくれる人に本気を伝える
- ☆目、耳、鼻、のど、口を開き、響きのある歌声をつくる
- ☆ほほを上げて、明るい表情で歌う
- ☆思いをこめて、言葉をはっきり伝える

《聴き方・書き方》

- ☆応援する気持ちで真剣に聴いてあげましょ。
- ☆よいところを見つけてあげましょ。
- ☆気持ちのこもった言葉でちゃんと感想を書いてあげましょ。

★友達(名前) <u>中野</u> <u>ずっと聴いてくれていて、</u>
★友達(名前) <u>前田</u> <u>か、綺麗で、</u>
★友達(名前) <u>高野</u> <u>とても綺麗で、</u>
または(家族)
★担任の先生( <u>中野</u> 先生)
<u>中野さん、きれいな声で歌ってました。</u>
★担任以外の校内の先生( <u>前田</u> 先生)
<u>中野さんの声がとても綺麗で、</u>
★音楽の先生(特別先生)
<u>中野さんの歌声が、とても綺麗で、</u>
<u>とても綺麗で、とても綺麗で、</u>
<u>とても綺麗で、とても綺麗で、</u>
<u>とても綺麗で、とても綺麗で、</u>

M 児は、おとなしい性格で、積極的に発表する姿は見られないが、落ち着いて音楽に取り組んでいる。やや自信のない感じで歌っているので、筆者は友だちと気持ちを合わせて合唱を楽しめるようになってほしいと願っていた。友だちに自分の歌を聴いてもらう取り組みを通して、「感動できる歌声に挑戦しようカード」の裏面まで友だちとの関わりの中で生まれた M 児の強い思いがあふれてきた。

#### (M 児の感想)

みんなにきいてもらって、少し自信をもつことができました。Nさんが声を大きく出して音もあってリードしてくれていたのも、私もNさんみたいにみんなをリードしていきたい。そして、Nさんを超えるぐらい気持ちを込めて、大きな声で目をみひらいてむねを大きくはって、自分なりの声をみんなにきいてもらいたいです。あと自信をもつてうたいたいです。

M 児の感想に何度も登場する N 児は、M 児のカードに「堂々と歌っていて、音も合っていてすごいなと思いました。」と感想を書いている。また、N 児のカードには、M 児が「声が大きく言葉がはっきりしていて聞きやすい。歌声をきいて、落ち着く」と書いてあった。二人とも合唱のアルトパートに所属していて、2部に分かれるところや声の出し方、気持ちの持ち方など、一緒に歌ったり、聴き合ったりする中で、歌えるようになっていく喜びを感じ合っていることがわかる。さらに、「〇〇さんのようになりたい」「自信をもって歌いたい」「みんなに聴いてもらいたい」という気持ちの高まりが主体的な音楽活動の原動力となっていくと思われる。



## (2) 5年生の合奏発表活動への取り組み

### (S 児の感想)

わたしは、学校などで、友だちと「この音がこれじゃない?」とか教え合ってがんばりました。分からない時は、友だちが何回も「高い方、高い方、」とか「低い方、低い方」と教えてくれたので、だんだん覚えられました。本番の演奏中の気持ちやがんばったことは、ライオンやゾウのような大動物になりきって、どうどうと演奏しました。まるで、観客の人たちをアフリカへさそういこむような勢いでがんばりました。


### (I 児の感想)

これまでの練習で、最初はぜんぜんできなくても先生や友だちが教えてくれてうれしかったです。友だちがわからない所はよく教えて、よくわからない所は友だちに教えてもらい、たがいに教え合うことができて楽しかったです。

友だちに教えてもらうことで、わかることやできることがあり、友だちに教えることで、わかることやできることが自信につながったりすることに改めて気づかされる。何より友だちと一緒に練習したり、演奏を合わせたりすることは楽しいことである。友だちと練習する中で、「わからないね」「むずかしいね」とできないところを見つけ、解決方法を一緒に考えることも楽しいことだと児童は感じていると思われる。このような取り組みで大切なことは、教師が教えるべきことと友だち同士で教え合うことの両方の活動をバランスよく仕組むことであると思われる。始めに全体で、めあてや練習の仕方などしっかり確認しておき、友だち同士で教え合ったり、聴き合ったりする活動に移行していくことが必要である。児童が進んで何度も繰り返し、演奏したい思いがあふれる合奏の取り組みは、達成感と自信につながると考える。


『音楽会』の4冊目 名前( )

わたし(学校などで)友だちとこの音が「これじゃない?」  
とか教え合ってがんばりました。分からない時は  
友だちが何回も「高い方、高い方、」とか「低い方、  
低い方、」と教えてくれたので、だんだん覚え  
られました。  
本番の演奏中の気持ちやがんばったことは、  
ライオンやゾウのような大動物になりきってどう  
どうと演奏しました。まるで観客の人たちをアフリ  
カへさそういこむような勢いでがんばりました。  
演奏が終わって、ほめました。わけは、  
すごく頑張ろうとして、みんなと同じように、い  
ちもどおりにできるが、心配したからです。  
でも練習通りになれるころは、やってみて、た  
たよかったです。



『音楽会』の1冊目 名前( )

今日の音楽会の演奏で、入場から最後まで感  
持を最後まで、自分の場所が立っていました。そ  
れ演奏が始まり、ぼくはバンパーノコで、最  
初の所で、小さい音から大きい音にするのを  
覚えました。他に先生に言われた気をつけろ  
う所も、かいてきて練習のとき、いろいろでき  
て、うれしかったです。今日小学校で、学年で  
演奏するの、はたぶん最後の、来年の歌でも  
学年全たいで、がんばりたいです。  
これまでの練習で、最初はぜんぜんできな  
くても先生や友だちが教えてくれたので、うれ  
しかったです。友だちがわからない所はよく教  
えて、よくわからない所は友だちに教えてもら  
い、たがいに教え合うことができて、楽しか  
らかったです。総合のり、仲間との絆が深  
いと感じています。これからも、絆が深  
まると思っています。みからの作  
事でも、今日のことを生かしてい  
たいです。  
最初は演奏しなくて、演奏ができました。  
練習の、高難易度の、練習の、大動物になりきって、演奏して



### 3) 主体的な音楽に向かう友だちとの関わりに関するアンケート

授業や音楽会などの音楽活動を通して、児童は、友だちとの関わりながら、音楽を理解したり、技能を身に付けたりしながら、音楽表現を高めていくことに喜びを感じていると思われる。さらに、主体的な学習を支援できるように、児童に調査アンケートを実施した。

## ①アンケート実施方法

実施年月：2021年 11月

対 象：山口市〇小学校 3年～6年（350名）

方 法：4とても思う、3思う、2あまり思わない、1思わない、の4段階でアンケートを行った。  
アンケート内容は文末資料1に示す。

## ②結果と考察

資料1に示す通り10の項目の結果を、男女別、学年別に表1に示す。

最高が4.0であり、男児・女児ともに3.0以上が多く、全体的に評価は高い。

2点台が多い学年は、6年男子で、5項目である。3年、4年、5年男子で、3項目が2点台となった。友だちとの話し合いや演奏を聴き合う活動で、「気づきが見つからない」「友だちと伝え合うことに抵抗がある」児童が少なくないことが分かった。その一方で、「友だちの気づきを生かしたい」「友だちの気づきを生かすと演奏がよくなる」と思う児童が多い。

表1. 学年、男女別アンケート結果

アンケート質問項目	学年	友だちと一緒に歌ったり、合奏したりすることは楽しいですか？	友だちと話し合ったり、教え合ったりすることは好きですか？	友だちとの話し合いの中で、気づくことがありますか？	気づいたことを友だちに伝えたいと思いますか？	友だちの演奏を聴いて、気づくことがありますか？	気づいたことを友だちに伝えたいと思いますか？	友だちの演奏を聴いて、気づくことがありますか？	友だちの演奏を聴いて、気づくことがありますか？	友だちの演奏を聴いて、気づくことがありますか？	友だちの演奏を聴いて、気づくことがありますか？
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
男子	3	3.3	3.0	2.9	2.9	3.1	2.8	3.2	3.2	3.2	3.3
	4	3.3	3.1	2.8	3.0	3.0	2.9	2.9	3.1	3.4	3.3
	5	3.4	3.2	3.0	2.9	3.0	2.8	2.9	3.1	3.3	3.5
	6	3.1	3.1	2.7	2.6	2.7	2.6	2.6	3.1	3.2	3.1
	学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
女子	3	3.7	3.4	3.2	3.2	3.4	3.2	3.4	3.3	3.6	3.7
	4	3.6	3.3	3.0	3.2	3.2	3.2	3.3	3.6	3.5	3.7
	5	3.4	3.2	3.0	3.2	3.1	3.2	3.2	3.4	3.6	3.6
	6	3.3	3.3	3.1	3.0	3.1	3.1	3.1	3.3	3.5	3.3
	学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

音楽の学習で、「どんな気づきを友だちに伝えたらよいか」を明確にしていくことが主体的な音楽学習に必要なことであることが分かる。学習内容やめあてを児童に分かりやすく提示する工夫が大切であることに改めて気づかされる。友だちと話し合う内容として、役割を決めることや演奏方法を選ぶことなど、具体的に示す簡単な活動から始めて、どの児童も話し合いに参加できるという自信を持たせたい。次に、感じたことや思ったことなどを相手に話す活動に進めていきたい。音楽の見方や考え方の気づきにどのような内容が含まれるのか、学習活動の中での共通

理解を図りたい。

高学年では、学習内容の理解や求められる技能が高いものになってくる。また、コミュニケーションのとり方もより気遣いが必要となってくる。そのような状況で、友だちと音楽を前向きに楽しんでいくことに消極的になる児童も見られる。学級集団の人間関係づくりがさらに重要となってくる時期である。音楽の学習の中にこそ人間関係づくりの活動を取り入れ、ゆるぎない信頼関係の中で、伸びやかに音楽を楽しめる雰囲気をつくりたいものである。

次に各項目の分析と考察を行う。

1 友だちと一緒に歌ったり、合奏したりすることは好きですか？

全学年男女とも、平均3以上で、友だちと一緒に音楽活動をするを肯定的に捉えていると言える。「友だちと一緒に音楽をすることは楽しい。心強い」などの感想が記入されていた。

2 友だちと話し合ったり、教え合ったりすることは好きですか？

全学年男女とも平均3以上で、好きという傾向にある。話し合う・教え合う活動について、男子は、中学年より高学年の方が好きという傾向が高くなっている。話し合い、教え合いの方法を学んだり、経験したりしていくことで、コミュニケーションをとることが好きになっていくと考えられる。

3 友だちと話し合いの中で気づくことがありますか？

学習内容に具体的に関わってくる質問であるが、全学年の男子で、2.69～2.96という平均値であった。どの学年も女子に比べやや低い数値である。グループでの話し合いが女子優位になっており、話し合いの仕方についての学習、支援が必要であることに気づかされる。

4 気づいたことを友だちに伝えたいと思いますか？

この項目でも男女差が出ており、男子の2.6～2.98という平均値であった。一方、女子は、3～3.22で、女子の方が気づいたことを友だちに伝えたい気持ちが高いと言える。

5 友だちの演奏を聴いて気づくことがありますか？

この項目では、6年男子のみ平均が2.74で、他学年は、男女共、3点台であったが、演奏を聴く前の学習過程や支援の工夫が重要であると思われる。

6 気づいたことを友だちに伝えたいと思いますか？

男子は、平均2.57～2.88で、女子は、3.06～3.22であった。ここでも女子の方が、気づいたことを友だちに伝えたいと思う傾向が強いと思われる。

7 友だちから演奏の気づきを言ってもらうことは好きですか？

この項目でも4年～6年男子にやや低い傾向が見られる。考えや思いを「伝え合う」活動を工夫していく必要性を感じる。

8 友だちからの気づきを演奏や表現に生かそうと思いますか？

全学年、男女共、平均3以上で、高い数値が見られる。友だちからの気づきを生かしてよい演奏にしていきたいという意欲が見られる。

9 お互いの気づきを生かし合って演奏すると演奏や表現がよくなると思いますか？

全学年、男女共、平均3以上で、高い数値が見られる。8との関連で、友だちの気づきを生かすと「よくなると思う」から「生かそうと思う」につながっていくのではないかと考えられる。6年の男子の中では、この項目が最も数値が高くなっている。

10 音楽の話し合いや練習で友だちと協力して活動をしていきたいですか？

どの学年においても男女共、高い数値である。女子は、全学年で、この項目が、最も数値が高くなっている。また、男子においても3年～5年で最も数値が高くなっている。

児童は、友だちと一緒に音楽活動をするのが楽しい、好きだとおおむね捉えている。「一緒」ということを「一人で歌ったり、器楽演奏をしたりするより友だちと演奏する方が楽しい」と感じている児童が多数ではあるが、一方では、「友だちと一緒に演奏している時、間違えたら迷惑がかかる」「一緒に活動している時、トラブルになる時がある」と感じている児童もいるようである。考え方、感じ方が異なる人間同士が集まり、よりよい表現を求めていこうとすることに、困難が伴うことは当然である。同学年においても個人で音楽経験に大きな違いがあり、基礎的な知識、技能面での差異をどのように指導に反映していくか重要となってくると考える。さらに、活動のめあてを明確にたり、スモールステップにすることで、一つ一つの活動に達成感を感じるような工夫が必要であると思われる。また、学年の発達段階、男女によってグループ活動のとらえ方に違いが見られることが数値的に明らかになり、グループのつくり方や人数に配慮することが大切であると思われる。

## 5. 総合考察

平成元年改訂学習指導要領に初めて示され、平成29年改訂において「生きる力」を育むことを目指すための言葉の一つとして「主体的」が示された。教育の場では日常的に用いられるこの言葉を、その深まりから3層、つまり第1層を課題依存型、第2層を自己調整型、第3層を人生型と捉え、音楽活動の教育実践で具体的にどのように育まれるのかについて分析、考察した。

グループで音楽表現を工夫していく時、全員が高い技術力と豊かな知識を持っている同質のグループが必ずしも生き生きとした演奏表現に向かっていくとは限らない。授業実践2で見られた1班のグループ活動では、M児の主体的な取り組みがグループ内の児童の気持ちを音楽に向かわせ、グループ全体の主体性を活性化させた。グループ内の他児が主体的に活動し発言するようになると共に、当初、音楽活動に消極的だったY児の心を開かせ、楽しんで音楽活動に参加させた。Y児のこれからの音楽活動に期待すると共に、音楽以外の学習や生活場面にも影響していくかどうか注目していきたい。

グループ活動を支えるものは、新指導要領に記載されている「共働」「共感」であると考えられる。共働は、児童が「協力」を「自分から入る」「人の意見を聞く」という言葉で表したように、一人ひとりが役割を認識し取り組み、お互いに生かし合うところから始まると思われる。小・中学校の学習指導要領に対するQ & Aで、「共働とは異なる個性をもつ者同士で問題の解決に向かうこと」の意義を強調している。児童は、音楽的な見方や考え方を通して、友だちと気づきを交わし合い、よりよい音楽表現へと高めていきたいという思いを持っていることを、本研究を通して改めて認識した。児童の思いを実現へと導くために、重要な指導のあり方をこれからも模索していきたいと考える。まずは、音楽的な課題に向かって、一人ひとりが大切な一員であることを集団の中で繰り返し確認することが必要であると思われる。そのためには、学級担任、専科、保護者等の大人の考え方、言葉かけが基本となり、児童を取り巻く友人関係の様子を見守っていく

ことが第一歩となるところであると考える。

本研究において、主体性な音楽において、第1段階として興味関心を持って課題に取り組む「課題依存型」の音楽活動が多く見られたが、高学年では、自身を方向づけたり、調整したりして課題に取り組む「自己調整型」の音楽活動をめざすことが重要であると思われる。さらに、中長期的な目標達成、アイデンティティ形成、ウェルビーイング（幸福感）をめざす「人生型」の主体的な学習に向かっていこうとする児童の姿を求めていきたい。

## おわりに

児童が主体的に関ろうとする環境を整えるためのあり方、その中で、児童がどのように育っていくか明らかにしてきた。

ゆるぎない信頼関係の中でこそ主体的な音楽活動は花開き、新たな関係性を構築していくものと思われる。より強い絆で結ばれた集団は、温かく、伸びやかな音楽表現を生み、みんなでよりよいものをつくりあげていこうとする意思を育てていく。児童の個性が輝き、自信あふれる音楽表現を通して、自分自身を表現できる人間であることに喜びを感じ、生きて欲しいと願うところである。

なお第3章までは河北、第4章以降は竹田の担当である。

---

<sup>1</sup> 後藤文彦著『主体性育成の観点から アクティヴ・ラーニングを考え直す』ナカニシヤ出版（2018）pp.1 - 3

<sup>2</sup> 溝上慎一「(理論) 主体的な学習とは —そもそも論から「主体的・対話的で深い学び—」まで」  
[http://smizok.net/education/subpages/a\\_gaisetsu.html](http://smizok.net/education/subpages/a_gaisetsu.html)

<sup>3</sup> 中央教育審議会答申（平成28年12月）

<sup>4</sup> 平成29年改定小学校学習指導要領

資料 1

♪ 音楽アンケート

年 組 名 前 ( )

- 1 友だちといっしょに歌ったり、合奏したりすることは楽しいですか。  
とても思う 思 う あまり思わない 全く思わない  
4 3 2 1
- 2 友だちと話し合ったり、教え合ったりすることは好きですか。  
とても思う 思 う あまり思わない 全く思わない  
4 3 2 1
- 3 友だちとの話し合いの中で、気づくことがありますか。  
とても思う 思 う あまり思わない 全く思わない  
4 3 2 1
- 4 気づいたことを友だちに伝えたいと思いますか。  
とても思う 思 う あまり思わない 全く思わない  
4 3 2 1
- 5 友だちの演奏を聴いて、気づくことはありますか。  
とても思う 思 う あまり思わない 全く思わない  
4 3 2 1
- 6 気づいたことを友だちに伝えたいと思いますか。  
とても思う 思 う あまり思わない 全く思わない  
4 3 2 1
- 7 友だちから演奏の気づきを言ってもらうことは、好きですか。  
とても思う 思 う あまり思わない 全く思わない  
4 3 2 1
- 8 友だちからの気づきを演奏や表現に（歌い方や音の出し方）生かしたいと思いま  
か。 とても思う 思 う あまり思わない 全く思わない  
4 3 2 1
- 9 お互いの気づきを生かし合って演奏すると、演奏（音楽表現）がよりよくなると思  
いますか。 とても思う 思 う あまり思わない 全く思わない  
4 3 2 1
- 10 音楽の話し合いや演奏で、友だちと協力して、活動をしていきたいですか。  
とても思う 思 う あまり思わない 全く思わない  
4 3 2 1

♪ 友だちといっしょに音楽をすることについて、思っていることを書いてください。